

発行：東京都港区虎ノ門
2-10-1 虎ノ門ツインビルデ
ィング西棟4階
富士通虎ノ門オフィス内
Mail: icscp@nifty.jp
2013年4月25日(木)No.001

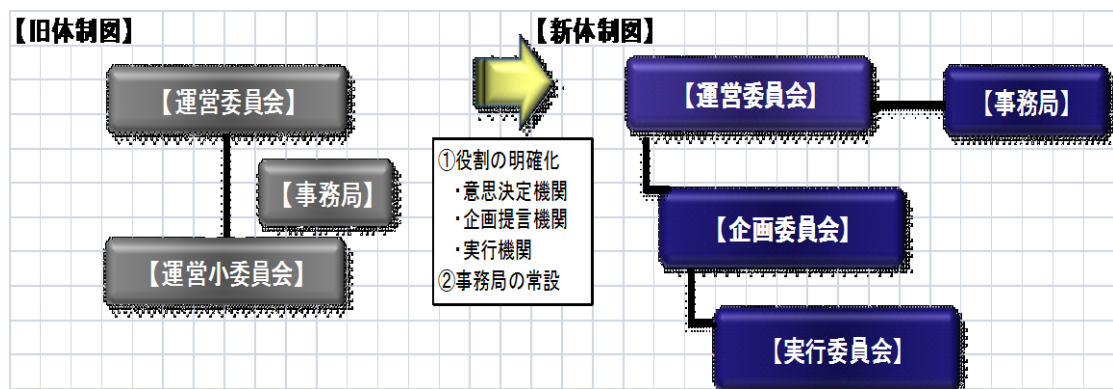


産応協ニュース 〈創刊号〉

スーパーコンピューティング技術産業応用協議会(産応協)
Industry Committee for Super-Computing Promotion

☆平成 25 年度活動組織決まる☆

産応協は、設立8年目にあたり、活動経過/成果の見直しを行い、取り巻く新しい環境変化に合わせた今後のあり方、運営等を検討した結果、設立(2005/12/15)当初における活動趣旨の再確認を踏まえて、さらなる活動の活性化と運営の安定化を目指した新体制を構築することとした。とくに本会の活動趣旨に賛同する企業による活動基盤の強化と産業界を代表する活動を積極的に展開することとした。



| 新体制の委員会委員長・副委員長ほか | |
|-------------------|----------------------------------|
| 運営委員会 | 第10回開催<2/22>、第11回開催<2/22>⇒次回6/18 |
| 委員長 | 内山田竹志(トヨタ自動車株式会社代表取締役副会長) |
| 副委員長 | 堤 和彦(三菱電機株式会社常務執行役) |
| 企画委員会 | 第1回<3/15>第、2回<4/9>⇒次回5/10 |
| 委員長 | 原田 淳(トヨタ自動車株式会社) |
| 副委員長 | 木槻純一(三菱電機株式会社) |
| 実行委員会 | 第1回<4/16>⇒次回5/10 |
| 委員長 | 伊藤宏幸(ガイオン工業株式会社) |
| 副委員長 | 滝本正人(みずほ情報総研株式会社) |
| 事務局 | |
| 事務局長 | 滝口 仁 |
| 事務局 | 清 紹英 |

産応協は、2013年2月22日開催した運営委員会で、従来の運営組織の刷新を決定いたしました。産応協は、産業界におけるスーパーコンピューティング技術(大規模数値シミュレーション技術及び関連技術)の普及促進を目的に、2005年に任意団体として設立。以来、産官学と幅広く連携し、シミュレーションソフトウェアの研究開発成果の普及、産業界における利活用人材育成に向け、下記をはじめ様々な活動を行ってきました。

① 文部科学省「次世代スーパーコンピュータ」プロジェクトに対する産業利用促進に向

けた提言/提案

- ② HPC技術(*)に関わる「官における政策情報」、「学における最先端研究」、「産における応用事例」を紹介し、普及啓発と人材の育成を目的にスーパーコンピューティング・セミナーの展開。(7年間で25回開催)
- ③ 産業界における次のイノベーションの担い手となる人材育成を目的に、スーパーコンピューティング技術の理解、習得をテーマとしたHPC産業利用スクールを開講し、利活用の実践体験と異業種間の交流等を推進した。(4年間で12回開講)
- ④ 昨年、スーパーコンピュータ「京」の本稼働運用に伴い、学際的な利活用はもとより、産業界においても積極的な利活用が重要になっており、産応協としても、日本のスーパーコンピューティング政策に対する産業界のニーズ及び利活用のあり方を明確に打ち出すために、運営体制の刷新を実施いたしました。運営体制の刷新は、①会の活動が産業界の幅広い業種の経営トップの意思を、よりスピード感をもって反映したものとなること、②大手企業だけでなく中小企業も含めた、より幅広い意見を集約、反映できる仕組みとすること、の2点にポイントを置き、現運営委員長小林喜光氏(㈱三菱ケミカルホールディングス代表取締役社長)を議長とした準備委員会を立ち上げて、検討してまいりました。その結果、①経営トップによる運営委員会(最高意思決定機関)、②運営委員会の意思を反映して会の事業を掌る企画委員会、③セミナー、スクールといった事業を実行に移す実行委員会(HPCの専門家で構成)の3段階組織による、組織的な活動を展開する体制に整え、更に、新たな会員募集も行った。
- ⑤ 運営委員会には、経済産業省、文部科学省より来賓を迎え、今回の刷新に積極的に取り組んでこられた、現運営委員長小林喜光氏の任期満了による退任と、新運営委員長として内山田竹志氏(トヨタ自動車㈱代表取締役副会長(次期会長))の就任を決定した。
- ⑥ 今後は、従来の活動内容を踏襲しつつ、新たに幅広い分野のエンドユーザの視点により活動の裾野を広げ、政府や大学/研究機関等との産官学連携を今まで以上に強化を行う。これにより、オールジャパン体制でのスーパーコンピューティング技術の普及・応用の推進に向けての取組姿勢を明示し、産業界からの要望・要請を継続的に取り入れつつ、会員にとって有意義な様々な事業を展開する計画とする。



《内山田新委員長のコメント》

第三の科学とも呼ばれる計算機科学によるシミュレーションは、研究開発のスピードを圧倒的に速め、同時にコストダウンにも繋がり、今後のものづくりを大きく変える可能性があると思います。従って我が国の国際競争力を高めるには、産業界にこの技術をより浸透させることが非常に大切な命題となると思います。この技術を広め、産業競争力の強化に結びつけるには、人材の育成、アプリケーションの開発など、取り組まなければならない課題が山ほどありますが、小林前委員長の築かれた方針を踏襲しつつ、更に経済産業省、文部科学省をはじめ関係各位のお力添えをいただきながら、この課題に取り組んでいきたいと思ひます。

「企業ニーズからの情報発信を強く」

「京」コンピュータは昨年 9 月から運用開始され、本年末には多くの実績が出る事が期待されている。一方、産業界における利活用に対する課題は、これら使い勝手などの対策が非常に遅れているという声であります。国プロによるスーパーコンピュータの稼働は、わが国の産業発展におけるますますの期待が大きくなっているにもかかわらず、企業ニーズに対する環境改善が非常に遅れています。これらの課題を含めて産協協は、取り巻く課題に対する「政策提言」「人材育成」「普及啓発」等の事業活動を平成 25 年度も引き続いて行います。わが国産業界のものづくり戦略においても、先端技術の導入をはじめとするコンピュータシミュレーション技術の利活用が重要であることが指摘されており、取り巻く関係機関の連携と支援/協力により産業界の果たす役割はますます重要になっています。

また、コンピュータシミュレーション技術の重要性は、企業トップの理解を得ることが、今後のわが国産業発展にとって大きな課題になっています。本年度は、新体制の下で各社トップの方々に直接の参加と指導を得て、さらに活動基盤の強化を図るとともにスーパーコンピューティング技術の産業応用推進のリーディング機関として、わが国本来の産業界を代表とする企業ニーズの活動の連携、協調を行い、積極的な活動を展開することとなりました。

スーパーコンピューティング・セミナー開催/HPC 産業利用スクールの開講

本事業は、産協協活動の特色を大きく表現した内容が基本になっており、取り巻く環境の変化とともに適応した内容が期待されています。平成 25 年度は前年度に引き続いて、セミナー開催を年 3 回、スクール開講を年 3 回予定する。セミナー参加はオープンであり、興味を持つ多くの方々に参加ができる年間参加申込みを受け付けます。また、スクール参加についても同様、誰でもが参加できるものとします。なお、産協協の正会員は、セミナーに無料参加複数できますので、関係者に周知して多くの参加を期待します。

その他、「先端ソフトウェア利活用による専門家ワークショップ」「サマースクール/アフタースクール」等を計画予定。

[産協協事務局]

事務局を「虎ノ門」に設けておりますので、お問い合わせをお待ちしております。

スーパーコンピューティング技術産業応用協議会

事務局 滝口、清

電話 03-6435-5425 Email:icscp@nifty.com